

小学校
4,5,6年生

子育てのかたち ○△□

どうして 勉強して ほしいんだろう？



新宿区教育委員会

新宿区ホームページより、全8種類の家庭教育ワークシートをダウンロードすることができます ▶



早く宿題しなさい!

今から勉強しておかないと置いていかれちゃう!

サッカー選手だって頭がよくなきゃなれないわよ!

学校の勉強で十分だろ。

塾に通わせたほうがいいのかしら?

勉強なんてできなくたって生きて行けるさ。

あの子相当勉強してるわよ。

勉強しなさい! ってつい言ってしまっけど...

次も90点以上を目指すのよ!

プログラミングもやっとなさなくちゃ。

普通でいいじゃん。

どうせやっとなさできないもん。

生きる力は体験から学べ!

どうして勉強しなきゃいけないの?

こんな勉強やっても意味ないよ。

宿題だけで大丈夫かしら。

昔は勉強なんかせんと、家の手伝いをしたもんじゃ。

グローバルな人間になるために英語は必要だ!

子どもに

そろそろ勉強しなさいな。

私は歌手になるから歌だけ勉強するの♪

どんな力をつけてほしいの?



...明日からかな。

勉強って楽しくないんだよね。

やっぱりいい大学に行ってほしい。

お手伝いしてくれるから助かるわ〜。

スマホの前に宿題でしょ!

どうして勉強しなきゃ いけないの？



子どもに、「どうして勉強しなきゃいけないの？」と聞かれたら、あなたは何と答えますか？「いい学校に入るため」「大学までは出てほしいから」「将来の可能性を広げるため」「お母さん、勉強ができなくて苦労したから」——。いろいろな答えが思い浮かぶことでしょう。答えに詰まってしまう人もいないのでしょうか。

そして、私たちはどうして「勉強しなさい」と言うのでしょうか。そこには「子どもが勉強していると安心」という気持ちがあるのかもしれません。高学年になり、ほかの子どもたちが勉強に力を入れ始めるのを見るにつけ、不安にかられる人もいます。

そもそも、あなたは子どもに、どんな力をつけて、どんな大人に成長してほしいと願っているのでしょうか。そのためにはどんなことを学んでほしいと考えているのでしょうか。子どもがいつか独り立ちするときのために、家庭でできることは何なのでしょう？

「勉強」「学び」について、もう一度考えてみませんか？

なぜあなたは「勉強しなさい」と 言いたくなるのでしょうか？

Q 1

「勉強しなさい」と言いたくなるのはどんなときですか？ それはなぜでしょうか。また、そんなとき、どのように声をかけましたか？ その場面を思い出してみましょう。

〈どんなとき？〉

夕方、子どもがスマホを見てゴロゴロしているときが多い。私も夕食の支度などで忙しいので、余計にイライラする。

例

〈どのように声をかけましたか？〉

「宿題やったの？」「やらなきゃいけないことを先にやってからにしなさい！」



〈どんなとき？〉



〈どのように声をかけましたか？〉

Q 2

どうして「勉強しなさい」と言ってしまうのでしょうか。

例) 言わないとずっとダラダラして自分から勉強をしないから。



…ロクセだから？

子どもにどんな「勉強」をしてほしいですか？

Q1

あなたは子どもにどんな「勉強」をしてほしいのでしょうか？ 具体的に書き出してみましょう。

例) 学校の宿題(計算ドリルや漢字練習)など。特に漢字の練習はしっかりやってほしい。



Q2

その「勉強」によって身につくのはどんな力でしょうか？

例) 漢字などをたくさん覚えられる。知識が増える。学習習慣がつく。



子どもに身につけてほしいのはどんな力ですか？

勉強や生活を通して子どもに身につけてほしい力は何ですか？

子どもが大人へと成長していく過程で特に大事にしたい力にチェックしてみましょう。

ここにある言葉以外にも思いつくものがあれば、記入しておきましょう。

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 意欲 | <input type="checkbox"/> 計算力 | <input type="checkbox"/> 読解力 |
| <input type="checkbox"/> 漢字力 | <input type="checkbox"/> 語い力 | <input type="checkbox"/> 知識・技能 |
| <input type="checkbox"/> 計画性 | <input type="checkbox"/> 思考力 | <input type="checkbox"/> 判断力 |
| <input type="checkbox"/> 表現力 | <input type="checkbox"/> 応用力 | <input type="checkbox"/> プログラミング技能 |
| <input type="checkbox"/> 芸術性 | <input type="checkbox"/> 想像力 | <input type="checkbox"/> 創造力 |
| <input type="checkbox"/> 語学力 | <input type="checkbox"/> 自然とかかわる力 | <input type="checkbox"/> 自主性 |
| <input type="checkbox"/> 行動力 | <input type="checkbox"/> 記憶力 | <input type="checkbox"/> ねばり強さ |
| <input type="checkbox"/> 集中力 | <input type="checkbox"/> 内省力* | <input type="checkbox"/> 運動能力 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 向上心 |
| <input type="checkbox"/> 情報処理能力 | <input type="checkbox"/> 批判的思考力 | <input type="checkbox"/> 作文力 |
| <input type="checkbox"/> () | <input type="checkbox"/> () | <input type="checkbox"/> () |
| <input type="checkbox"/> () | <input type="checkbox"/> () | <input type="checkbox"/> () |

* 内省力/自分の考えや行動などを深くかえりみる力。反省する力も含む。

ゲームやSNS、親にできることは、

「うちの子、ゲームばかりしている」と心配な方は、一方的に制限する前に子どもの表情を見てみましょう。楽しそうに友達とゲームをしている、真剣な表情で工夫をして取り組んでいるなどなら、あなたも一緒にゲームを体験し、同じ目線で楽しさやデメリットを話し合ってみませんか。その上で一緒に家庭のルールを考えてみましょう。

子どもたちは、何か心配事があるときや困っているとき、さみしいときなどに、ゲームに没頭することもあります。ゲーム中はその悩みから一時的に離れられるからです。もっと楽しそうな遊びに誘ったり、一緒に散歩や料理などをしたりすることで、ゲームの時間も減り、少しずつ悩みを話してくれるようになるかもしれません。

また、スマホを使っているとSNSなどでトラブルに巻き込まれる可能性もあります。その危険性についても親子で学び、困った時には相談できる関係を普段からつづけておきましょう。「あなたを理解したい」「どんな時も味方だよ」というメッセージを伝え、相談を受けられます。「よく相談してくれたね」と伝えてあげてください。

暮らしの中ではぐくむ力

近年、世界的に求められている学力は、学校で覚える知識の量や質だけではなく、「問題を解決できる力」だといわれています。先の見えない時代において、答えのない問いに対しても主体的に取り組み力が求められているのです。それは、生活の中でもはぐくむことができます。

学校で子どもたちは、外国にルーツのある子どもと一緒に生活する中で、互いにさまざまな力を発揮しています。日本語でうまくやりとりができない時には、遊びのルールを簡単にしたり、絵を描いてやりとりをしたり、日本語が話せるようになってきた子が通訳をしたり……。みんなで知恵を出し合い、工夫しながら楽しく遊んでいる様子が見られます。

家庭でも、例えばお菓子作りでレシピをアレンジして試行錯誤したり、虫や生き物を飼うことで予測できないことが起こったりする場面があるかもしれません。子どもたちは自分の好きなことや楽しいことなら、失敗を繰り返しても何度も粘り強く取り組むことができます。ぜひそんな機会を応援してあげてください。

あなたが子どもに身につけてほしい力は どのグループに入っていますか？

学校では「3つの力」をバランスよくはぐくむことを目指しています。
7ページであなたが選んだ力にチェックを入れてみましょう。
あなたが望む力のバランスはどのようになっていますか？

3つの力

学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界とかかわり、より良い人生を送るか

- 意欲
- 計画性
- 自然とかかわる力
- 自主性
- 行動力
- ねばり強さ
- 集中力
- 内省力
- コミュニケーション力
- 協調性
- 向上心

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

- 計算力
- 読解力
- 漢字力
- 語い力
- 知識・技能
- プログラミング技能
- 語学力
- 記憶力
- 作文力

思考力・判断力・表現力等

理解していること・できることを
どう使うか

- 思考力
- 応用力
- 想像力
- 判断力
- 運動能力
- 創造力
- 表現力
- 芸術性
- 情報処理能力
- 批判的思考力

生活や遊びの中で、子どもたちはどんな様子ですか？

学びにつながる「3つの力」をはぐくむためには、土台となる暮らしや遊びの実体験がとても重要です。子どもたちはどんなことに興味や関心があるのか、どのように過ごしているのか、家庭での普段の様子を思い返してみましょう。

**自分を大事に
思うところ**

- ・自尊心
- ・自己肯定感

意欲的に取り組む力

- ・興味・関心
- ・好奇心

やりぬく力

- ・熱中して取り組む力
- ・レジリエンス※

**自分を
コントロールする力**

- ・主体性
- ・自己管理能力

人と関わる力

- ・思いやりや信頼
- ・協調性

※ レジリエンス/困難な状況でもしなやかに立ち直る力。

Q 1 どんなことに興味や関心を持っていますか？
どんなことが好きですか？
自分から取り組んでいることはどんなことですか？

Q 2 生活のさまざまな場面で、子どもたちはどんな力をはぐくんでいると思いますか？
左にあげた力が発揮されていると思うのはどんな場面ですか？

新しい「3つの力」ってなんだろう

2020年から始まった新しい「学習指導要領」には、「社会に出てからも学校で学んだことを生かせるように3つの力をバランスよくはぐくむ」とあります。

その「3つの力」とはどんなものでしょうか。実際の社会や生活で生きて働く「知識や技能」。未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」。そして、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」です。

先生に教えられることを受動的に聞き、試験や受験のためだけのノウハウを学ぶだけでは、これらの力をバランスよくはぐくむことができません。それぞれの個性や視点を活かして周りの人と共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれるような主体的な学びが必要です。学校でも、さまざまな知識がつながって、「わかった!」「面白い!」と思えるような「主体的・対話的で深い学び」を大切にしています。

学校での学びが日常生活での体験となったり、家族の仕事や社会の出来事とのつながりを親子で話したりすることで、3つの力はさらに深めることができます。

点数をつけられない大事な力

全ての学力のベースとして「非認知能力」が注目されています。記憶力や思考力などの「認知能力」だけでなく、情動や感情に関連する「非認知能力」が高い人のほうが、大人になって社会的にも経済的にも成功している人が多いという研究結果があるのです。

具体的には、自分を大事に思うところ、やりぬく力、人と関わる力、自分をコントロールする力などが挙げられます。いくつになっても生きていくために重要な力です。自分は愛されているという安心感があれば、失敗を恐れず何度も挑戦し、興味のあることをやり抜くことができます。自分を大切にできる人は、自分と同じように他者の気持ちや大切に思いやり、違いを認め合って協力することができるようになります。

これらは、効率よく身につけることができません。自分の意思でやりたいことに最後まで熱中して取り組んだ経験や、多様な人とかかわりを通して身につけていきます。「勉強」をしていない時も、子どもたちはたくさんの力を身につけているという視点を持つと、子どもの「遊び」や「暮らし」の見方が少し変わるかもしれません。

今、あらためてはぐくみたい力はどんな力ですか？ その「力の芽」はどんな場面にありそうですか？

8～9ページを見返してみましょう。生きる力や学力を支える「3つの力」や、その土台となる体験からはぐくまれる力（非認知能力）についてもう一度全体を見直した時、見落としていた子どもの「力の芽」はありませんでしたか？
その「力の芽」はどんな場面で見られますか？

〈はぐくみたい力〉 興味・関心・熱中して取り組む力

例 〈その「力の芽」はどんな場面で見られますか？〉 好きなことなら何時間でもやっている。絵を描いたり、本を読んだりしている時はかなり熱中していると思う。



〈はぐくみたい力〉

〈その「力の芽」はどんな場面で見られますか？〉



〈はぐくみたい力〉

〈その「力の芽」はどんな場面で見られますか？〉



意欲の源は夢を語ること

あなたの子どもの「宇宙飛行士になりたい」と言い出したら、どう返しますか？「だったら、算数や理科、英語も頑張らなきゃね」と言いたくなる人も多いことでしょう。でもその前に、ぜひこんな問いかけをしてみましょう。

「宇宙のどこに行ってみたい？」「宇宙を飛んだらどんなものが見えるかな？」ありありと今その状態にいるかのように語らせることで、夢はどんどんふくらみます。もうひとつのコツは「感情」を聴くこと。「宇宙から地球を見るとどんな気持ちだろうね？」。人は思考ではなく、感情に影響されて行動を起こします。夢を語るときのワクワク感に気付いたら、きっと夢のとりこになることでしょう。

昨今の風潮として「最短距離で目的を達成する方法」だけに焦点が当たりがちです。それでは、当初考えていた方法がうまくいかないとやる気を失ってしまいます。一方、夢をしっかりと描いていけば、方法は大きな問題ではありません。夢にたどり着くため、意欲的にさまざまな工夫ができる子に育っていくことでしょう。

その力をはぐくむために、 親としてできることはどんなことですか？

生きる力や学力の土台となる大切な力（非認知能力）は、子どもが「やってみたい!」「おもしろい!」と思い主体的に動く体験の中で育っていきます。そのために、どんなかかわりができそうですか？



例

- ・受験対策ばかりで何に関心があるか今まであまりよくわからなかったので、まずはどんなことが好きなのか、興味があるのか話してみたい。
- ・ファッションに興味があるから、どんなファッションが好きかもう少し聞いてみよう。
- ・知らない人も物おじせず話すから、ボランティアの会議に誘ってみよう。
- ・韓国のアイドルが好きだから、ダンスの振り付け教えてもらおうかな。
- ・お菓子づくりのとき、口出しせず任せてみよう。
- ・大好きなサッカーに絡めて、判断力や思考力を伸ばすにはどうすればいいかを一緒に考えてみよう。

この「4つ4つ」ぶしに
対する集中力!

この子大物に
なるわね!



子どもの中にある「力の芽」を見つけ、 見守り、ゆっくりはぐくみましょう。



「勉強しなさい」の奥にある、あなたの本当の願いは何でしたか？子どもの学びについて、これまでと少し違う視点を持つことができたのではないのでしょうか。「力の芽」は、子どもたちの中にきっとあるはずです。それを見つけて、大切に育ててみませんか？否定され、せかされては伸びやかに育つことができません。水をやり、声をかけて待つことで、その芽は大きく育っていくことでしょう。いろいろな視点から子どもの成長を見守り、ゆっくりはぐくみましょう。

「なぜ勉強しなくてはいけ ないの」と聞かれたら

前早稲田大学大学院 教職研究科教授 菅野 静二

学習意欲の低下が問題になっている昨今ですが、子どもから「なぜ勉強しなくてはいけないの?」と聞かれたら、親はなんと答えたらいのでしょうか。

今から70〜80年前まではこんな質問はなかったはずですが、勉強はしたい子どもがいるもので、苦手な子どもに無理して勉強させるより奉公に出した方がよい、と親は考えていました。また、戦時中は勉強しなくても勉強ができなかったという話をよく聞きます。

40〜50年前までは、日本は戦後からの脱却を目指し、高度経

済成長の真ただ中でしたから、親はみんな同じように「勉強しなかつたらいい学校には入れないでしょう」「いい学校を出なかつたらいい会社に就職できないでしょう」「いい会社に入れなかつたらいい生活ができないでしょう」「だから、しっかり勉強しなさい」と答えていました。

ハングリーではない子どもたち

バブルがはじけると、個性尊重と称して、「あなたは好きなことをやればいいのよ」「好き

なことを見つけるために勉強しなさい」というようになりました。大学までもが「芸入学と称し、何か得意なことがあれば入れるようになりました。

好きなことだけをして生きていければそれに越したことはないでしょう。しかし、現実的には、好きなことだけをして生涯生活ができるようになるのは限られた人たちです。好きではないことでも我慢してできるようになることが大人になるということなのかもしれません。

現在、子どもたちに「将来何になりたいの?」「どんな生活ができるようになったいの?」と聞くと「べつに…」「いいよ、今のままの生活で」という答えが返ってきます。

夢もない、欲もない、いわゆるハングリーではない子どもたちに学習意欲を持たせることはきわめて難しいことです。

命の役割を見つけ 果たすため

さて、それでは子どもに、なんと答えたらいのでしょうか。

私は、「あなたの命の役割を見つけ、果たすためだよ」と答えることにしています。無駄な命はありません。奇跡的に、この時代、この国でこの親のもとに生まれたのです。その子にしか果たすことのできない役割が必ずあるはずですから。それが何かを見つけるために勉強するのです。

そう考えると、「勉強しなさい!」の中身も言い方も、少し違ってくるのかもしれない。

すがの・せいじ 前早稲田大学大学院教職研究科教授。14年にわたり、小笠原村立母島小・中学校、新宿区立大久保小学校・幼稚園、新宿区立四谷第六小学校・幼稚園の校長・園長を歴任。その間、総合的な学習の時間のカリキュラム開発研究発表・文部科学省小中連携教育実践協力校研究発表・いのちの学習」カリキュラム開発研究発表に携わる。